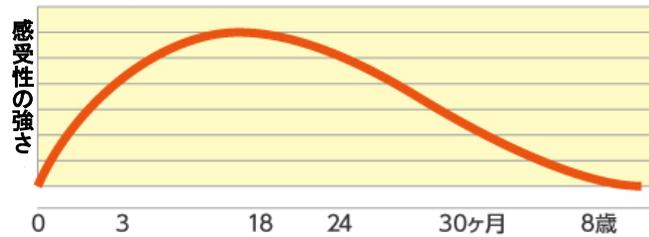


子どもたちの「眼」の健康を守る

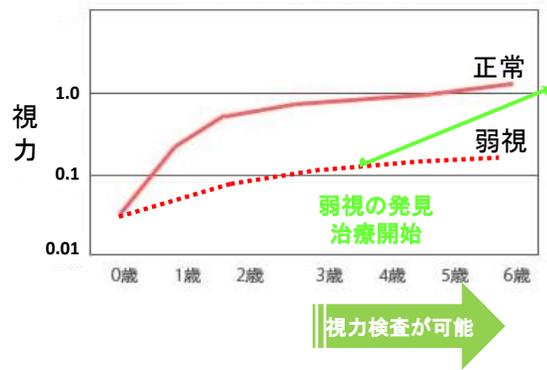
視覚の感受性期間

視覚発達の影響を受ける未熟な期間



★ 弱視の治療は8歳までに

視力の発達と年齢

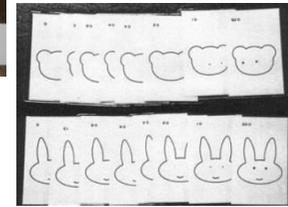


乳幼児の視力の評価

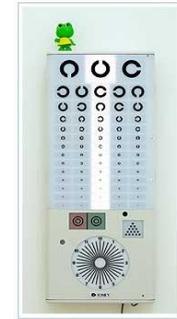
どの方法をとるかは、患児の認知力、対人関係のとり方、コミュニケーション手段などに合わせて選択する



ランドルト環単独視標
3歳で可能



森実氏ドットカード(うさぎ、くま)



字づまり視力表
7~8歳より

ポイント

・子どもの発達に合わせた検査を選ぶ

眼科検査の特徴

- 検査対象は「人」
- 患者さんの自覚的応答に頼る検査が多い
- ⇒ 検査手技によっては本来の状況を反映していない結果を出しかねない
- 検査手技に熟練が必要
- 患者さんとのコミュニケーションが大事

心理的物理的検査

- > 検査に時間がかかる
- > 患者の応答がない場合や信頼性に欠ける場合には検査できない
- > 2歳くらいまでの視機能をもっとも知りたい時期には、応答があいまいなため自覚的な検査が難しい ⇒ 日常の観察が大事